

広域行政のあり方について 報告書 概要

第1章 関西広域連合の実績と今後の課題

I 関西の特徴

- 1 概況
- 2 自然環境、歴史、文化
- 3 研究・教育、人材育成
- 4 産業
- 5 交通インフラ

II 関西広域連合の設立

- 1 中央集権下の関西の状況
- 2 関西広域連合の設立
制度疲労を起こしている現在の中央集権体制を打破し、自らの政策順位を決定・実行できる関西を作り上げていくため、平成 22 年に関西広域連合を設立。(以下、設立の 3 つのねらい)
 - 1 地方分権の突破口を開く (分権型社会の実現)
 - 2 関西における広域行政を展開する (関西全体の広域行政を担う責任主体)
 - 3 国と地方の二重行政を解消する (国の地方支分部局の事務の受け皿づくり)

III 関西広域連合の8年間の取組

- 1 組織の特色
- 2 関西広域連合の 8 年間の成果
 - (1) 7 分野の取組
 - ①広域防災に関する主な取組
 - ②広域観光・文化・スポーツ振興に関する主な取組
 - ア 観光振興・文化振興
 - イ スポーツ振興
 - ③広域産業振興に関する主な取組
 - ア 広域産業振興局の取組
 - イ 農林水産部の取組
 - ④広域医療に関する主な取組
 - ⑤広域環境保全に関する主な取組
 - ⑥資格試験・免許等に関する主な取組
 - ⑦広域職員研修に関する主な取組
 - (2) 関西広域連合の企画調整に関する事務
 - ①分野横断的な広域課題への取組
 - ア 琵琶湖・淀川流域対策
 - イ エネルギー政策の推進
 - ウ 特区事業の展開
 - ②関西経済界等との国家的プロジェクトの推進
 - ア 北陸新幹線など広域インフラ整備
 - イ ワールドマスターズゲームズ 2021 関西
 - ウ 大阪・関西万博(2025 年日本国際博覧会)
 - ③関西の各主体と連携した取組
 - ア 関西観光本部
 - イ 関西健康・医療創生会議
 - ウ 関西女性活躍推進フォーラム
 - エ 関西SDGsプラットフォーム
 - (3) 分権型社会の実現に向けた取組
 - ①国からの事務・権限移管の推進
 - ②政府機関等の移転促進

IV 関西広域連合の今後の課題と方向

- 1 関西をめぐる情勢変化
 - (1) 世界・日本の中の関西 (2) 競争にさらされる関西 (3) 関西における人口構成の変化
- 2 関西広域連合の今後の課題
 - (1) ガバナンス力を高めること
異なる立場や背景を有する各主体間を調整する企画力や調整力の更なる向上が課題。
 - (2) 国の事務・権限の移管を進めること
国における分権の機運が停滞し、現在の進め方では地方分権が進まないことが課題。
 - (3) 日本・関西の活力を高めること
関西の活力が低下、停滞していることが課題。
- 3 関西広域連合が堅持すべき視点
 - (1) 8 年間の実績を活かした関西の地域特性にふさわしいもの ~関西広域連合を進化させたもの~
 - (2) 地方自治、地方分権の理念を実現するもの ~地方自治体であること~
 - (3) 広域行政としての役割が発揮できるもの ~近接性と補完性に基づくもの~
 - (4) 国との役割が明確となり、それぞれが最大限の機能を発揮できるもの
~国と地方を通じた我が国の統治機構の一翼を担うもの~

第2章 関西広域連合の更なる強化(短期的な視点から)

I 強化した関西広域連合の姿

~現行法制度下で広域連合としての役割を遺憾なく発揮する~

II 内部ガバナンス

- 1 関西広域連合の求心力の向上
 - (1) 関西広域連合委員会の充実
 - (2) 実務責任者等の活用
 - (3) 関西広域連合の政策機能の向上と
関西選出国会議員との連携
 - (4) 関西広域連合の附属機関等の活性化
- 2 事務やその執行のあり方
 - (1) 分野・執行体制の強化とデジタル技術の活用
 - (2) 更なる情報発信による認知度の向上
- 3 財源
 - (1) 構成府県市の負担金(拠出金)の確保
 - (2) 手数料等の受益者負担の確保
 - (3) 国の交付金等の活用
- 4 人員
 - (1) 関西広域連合の人員体制の充実
 - (2) 経済界等からの人材派遣

III 地域ガバナンス

- 1 国や国の出先機関との関係
 - (1) 国の出先機関の関西広域連合委員会等への参画
 - (2) 法定の国の出先機関等との意見交換の場の活用
 - (3) 国の出先機関との事務連携・協力
 - (4) 関西に関係する国の計画策定への参画
 - (5) 在関西本省庁機関との連携
 - (6) 国の事務・権限の移管と実証実験制度の創設
 - (7) 地方自治法に基づく国に対する権限移管の要請権の行使
- 2 様々な主体との連携
 - (1) 関西経済界との連携推進
 - (2) 研究・教育機関等との連携推進
 - (3) 市町村等との連携推進
 - (4) アドホック(特定目的)な組織の活用
 - (5) 全国知事会等との連携

第3章 将来に向けた関西広域連合の進化(中長期的な視点から)

I 進化した関西広域連合の姿

~現行法制度の改正も視野に入れた関西広域に関する内政を担う~

II 内部ガバナンス

- 1 政治的調整力の発揮
 - (1) 関西選出国議員の広域連合議員への兼職等
 - (2) 執行体制の拡充
- 2 財源及び人員
 - (1) 国からの応分の負担
 - (2) 受益者による負担や関係者による協賛
(アドホックな組織等の財源確保)

III 地域ガバナンス

- 1 国との関係
 - (1) 国と関西広域連合の関係を再構築
 - (2) 国との計画協定の法制化
- 2 地方自治、地方分権の実現に向けて
 - (1) 関西広域連合の条例への立法委任
 - (2) 関西広域連合から国への法律提案権

第4章 関西の将来像

I 関西の将来の姿

多様な主体が、それぞれの力を発揮して、地域課題の解決に対応できるように、オール関西で関西を発展させていく。

II 関西広域連合の強化、進化のまとめ

- 1 執行機関及び議会の強化
- 2 アドホックな組織の活躍促進
- 3 国との関係
- 4 広域連合制度の進化
- 5 国の事務権限の移管推進と政府機関等の移転促進

III 進化した関西広域連合の姿 -関西の”力”を総合化する結節点へ-

関西広域連合が関西広域に関する内政を担うことができる機能を発揮するとともに、多様な主体との連携や主体同士の連携により関西の”力”を総合化する結節点となり、関西全体の活性化を図る。